

山友会入口のハイアチ椅子はおじさん

▼ たち憩いの特等席

山友会 白書

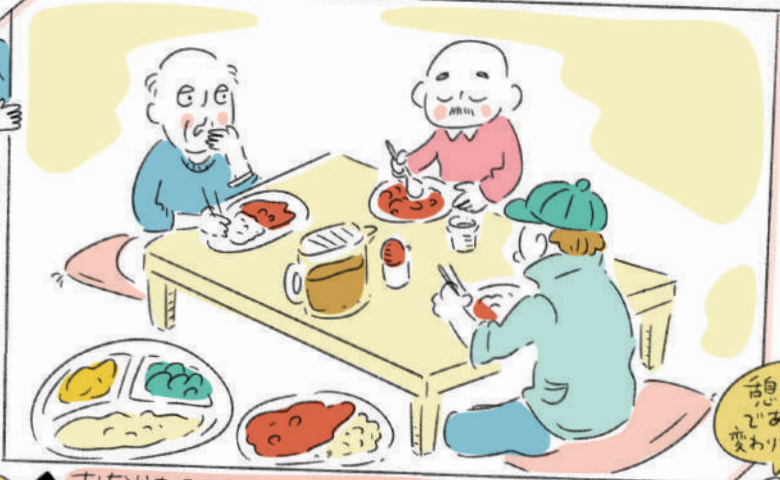
2023

特定非営利活動法人 山友会

2023年度活動報告「山友会白書」

何食ない雑談が
大事だにりするよね

やと再開できたね！
おじさんとボランティアさん、
みんなまた集まれるね



憩いの場
であることは
変わらないね

おじさん
いつも
手伝っ
てくれて
いるよ

山友会は
みんな家族

▲ おながもころもい、ほいになる食堂です

今も昔も
トードーク
Dmzは
同じ



▲ 相談室前のお茶でいとき



▲ 70代になつたジャンさん



山友会白書 2023

2024年6月発行

発行者:特定非営利活動法人 山友会

企画・編集:山友会白書2023制作委員会

デザイン・イラスト:進士 遙

協力:ボランティアの皆さま、関係者の皆さま

Special Thanks:山友会の仲間たち

目次

p4	代表挨拶	p20	活動報告 6: 居場所・生きがいづくりプロジェクト
p5	理事長挨拶	p22	活動報告 7: 山谷・アート・プロジェクト
p6	特集: 町の変化にどう向き合っていくか	p24	活動報告 8: 共同基地の運営
p10	活動報告 1: クリニック	p26	活動報告 9: 社会的包摂を推進するための普及・啓発事業
p12	活動報告 2: 相談室	p28	会計報告
p14	活動報告 3: 炊き出し・アウトリーチ	p30	ご支援について
p16	活動報告 4: 食堂		
p18	活動報告 5: 山友荘		



ルボ・ジャン

代表挨拶



山谷の町は大きく変わってきています。山谷では有名な「いろは会商店街」にたくさんあった昔ながらの小さな店はほとんどなくなって、路上生活を送る人が雨をしのぐことができた商店街のアーケードも老朽化のため解体されてしまいました。廃業する簡易宿泊所も増えてきて、その代わりに高層マンションだらけの町になりました。

路上で生活する人が寝泊まりできる場所や、昼間に身体を休めることのできる場所はだんだんと少なくなったように感じます。彼らはいったい、どこにいればよいのでしょうか。

新型コロナウイルス感染拡大前に活動を支えてくださっていたボランティアの皆さんの多くは、4年もの長い空白の間に事情が変わってしまい、戻ってこられません。さらに、活動を手伝ってくれているおじさん達も年をとってきました。それぞれ持病で病院に通いながらも、体調がよい時には手伝いを続けてくれています。ときどき心配になりますが、まだ元気なうちは頑張りたいというおじさん達の気持ちに大きく支えられています。

山友会は無料診療や生活相談、炊き出しなどさまざまな支援を行っています。ただ、最も大切な

ことは、孤独で苦しくなった心を軽くすることです。そのためには、友人や家族のような共同体が必要です。

私には持病があり、訪問看護師が定期的に訪問してくれています。このあいだ看護師さんが家に来た時、ちょうど2〜3人のおじさんが立ち寄ってくれていました。おじさん達と私が賑やかにしている様子に驚いた看護師さんは、「ジャンさんには家族以上の家族がいますね」と言いました。その言葉を聞いて、私はとてもうれしかった。

山谷の町が変わっても、世の中が大きく変わっても、この温かく大切な共同体をずっと残していきたい。そのために、山友会は何をすべきなのかをおじさん達、スタッフ・ボランティアの皆さん、そしてご支援いただいている皆さまと一緒に考え続けていきたいと思います。



大脇 甲哉

理事長挨拶

いつも山友会の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大が収束傾向にあり、隅田川花火大会や花見など山谷の町にも賑わいに彩られた日常が戻りつつあると感じます。しかし、高齢者や病気を抱えながら暮らす方の多い山谷地域では、さまざまな感染症の脅威に備えておかなければなりません。

4年にわたるコロナ禍を経て、山谷の町並みは変わっていきました。簡易宿泊所や小さな商店、居酒屋は徐々に姿を消しています。2020年の東京オリンピック・パラリンピック以降、不動産や土地の価格は上昇しているようで、山谷地域でもマンションの建設ラッシュが起きています。一時はほとんど見かけなくなった、外国人観光客や留学生の姿を多く見かけるようにもなりました。

山友会では感染防止のために活動を中止・縮小していた「居場所・生きがいづくりプロジェクト」と「山谷・アート・プロジェクト」を段階的に再開したほか、食堂での昼食提供も2023年8月から週1回のみ再開しています。今後、スタッフを確保してコロナ禍前のように昼食を提供できるようにしていきたいと考えています。

山谷地域の簡易宿泊所は、歴史的に住まいを失った生活困窮者の受け皿となってきました。再開に伴い、簡易宿泊所が減少していることで、その受け皿が失われつつあります。さらに、新たな住民が増え街並みも変わっていくことで、山谷のおじさん達の居場所となってきた山友会事務所前の路地も、多くの人が集うことが難しくなってくるかもしれません。このような状況に、地域の

不動産仲介業者や居住支援法人などと連携して対応していくことを考えています。

山友会クリニックを受診した患者で症状が重篤な場合、基本的には生活保護制度などを利用して専門医療機関での治療につながりますが、なかには事情により生活保護を受給できなかったり、制度利用を拒まれたりする方もいらっしゃいます。そうした方へ無料低額診療事業を行う医療機関に検査や治療を依頼することが増えてきました。

また、簡易宿泊所やアパートで暮らす方で、精神疾患や認知症をはじめ様々な障害を抱えていることなどで必要な医療にアクセスできていない人に対して、訪問診療や訪問看護などの地域の医療サービスへつなぎ、その後の健康管理の支援を行うことも多くなっています。

簡易宿泊所で暮らす方々の高齢化を踏まえると、必要な医療につながぐために、地域の医療機関などとの連携をより深めていかなければなりません。

一方で、山友荘や相談室、食堂のスタッフが不足した状況が続いています。必要な人員が確保できないまま、スタッフたちは日常の活動に忙殺されている現状です。地域の変化に対応し、支援対象者の多様化するニーズを受け止めていくためには、人材確保は急務です。

苦しい状況ではありますが、社会から孤立し生活に困窮した人々の住まいと居場所、そして命と暮らしを守るために私たちは今後も努力を続けていきます。今後とも皆さまのご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

町の変化に どう向き合っていくか

特集



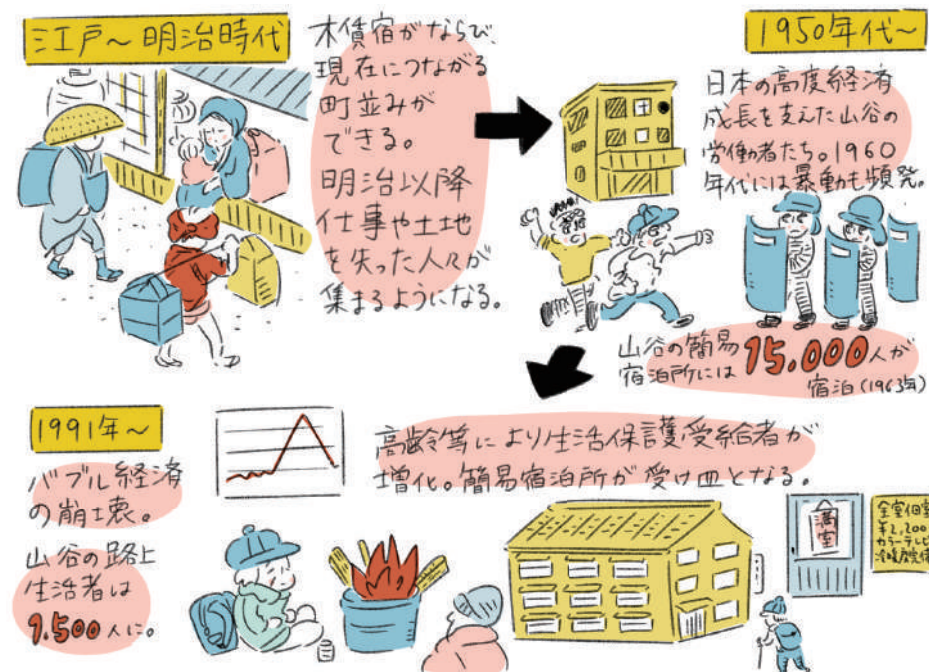
労働者の町から福祉の町へ

1950年からの朝鮮戦争特需を契機とした好景気から高度経済成長期にかけて起きた土木・建設作業などの労働需要急増を受けて、山谷の町には全国から労働者が集まり、「労働者の町」と知られるようになりました。昭和38年（1963年）には、222軒の簡易宿泊所に約15,000人も労働者などが宿泊していたようです。また、多くの労働者で町が賑わい、警察官や仕事を斡旋する悪質な手配師などからの不当な扱いや、社会からの偏見・差別を背景とした暴動が頻発していたことも、そのころの出来事として知られることです。

中世より山谷地域は地理的に街道に近く、人の往来が多い場所であったため、江戸時代には街道に沿って「木賃宿」と呼ばれる安宿が立ち並び、現在につながる街並みができました。とくに明治時代以降、時代の変化のあおりで仕事や土地を

失った人たちが木賃宿に多く集まるようになったようです。南千住駅の傍に貨物駅として現在も残る「隅田川駅」は、その頃から物流の中継地として石炭や材木が集められていました。その積み下ろしに多くの人手が必要であったことが、山谷の町に労働者が集められることにつながります。その後も、大火災や震災からの都市再建、戦後復興に必要な人手が、山谷の町に集まった労働者や困窮者によって賄われてきました。

バブル経済崩壊後は土木・建設の労働需要が激減したことで、山谷は深刻な仕事不足に陥ります。長期にわたって失業した労働者のなかには、路上生活を続けなければならない人が増えました。平成19年（1999年）には、山谷およびその周辺で路上生活を送る人が約1,500人いたといわれています。高齢や健康状態の悪化により働くことが難しくなった人などで生活保護を受給する人が増加。こうした住まいのない生活保護受給者の



受け入れに、簡易宿泊所が活用されたことで、「福祉の町」と呼ばれるようになりました。

「高齢者の町」を支える先駆的な取り組み

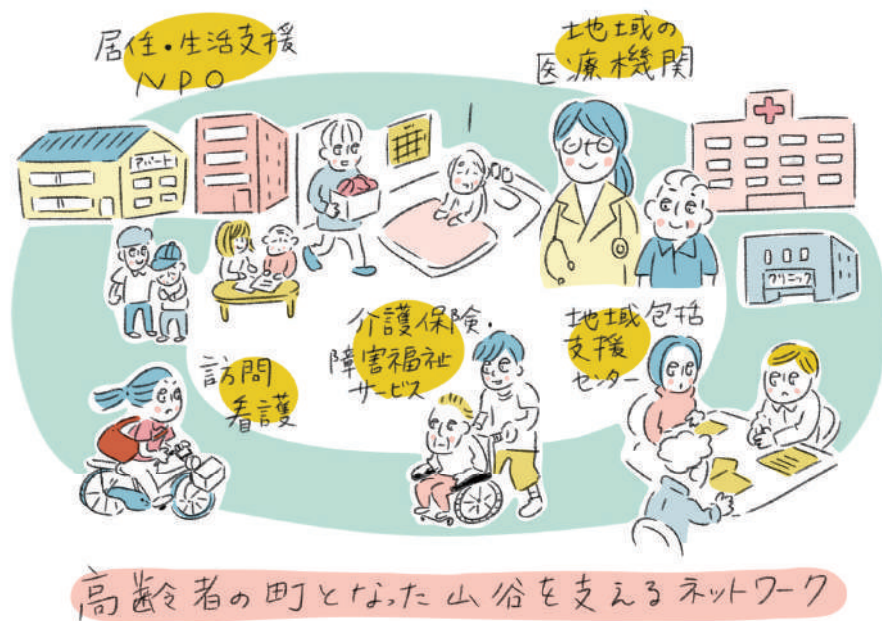
社会状況や経済・雇用情勢の変化に加えて、行政による路上生活者対策や民間団体による支援によって、路上生活を送る人の数は令和3年（2021年）には108人にまで減少。また、山谷地域の簡易宿泊所宿泊者のうち約9割が生活保護を受給しており、宿泊者のうちおよそ7割が65歳以上という状況であり、「高齢者の町」へと姿を変えています。

また、1990年代ごろより民間団体によって開設された施設の多くは、高齢で介護が必要であったり、障害や病気を抱えていたりする生活保護受給者などの生活支援を行う施設となっています。平成20年（2008年）には、こうした居住支援や生

活支援を行うNPOや、地域の医療機関、訪問看護ステーション、介護保険・障害福祉サービスのほか、地域包括支援センターといった公的支援機関などにより構成される「山谷・地域ケア連携をすすめる会」が設立され、社会的に孤立し、さまざまな困難を抱えた人たちを支えるためのネットワークづくりが行われています。このように、山谷地域の簡易宿泊所や生活支援施設で暮らす人々の地域生活を支える取り組みは、高齢化が進む日本において、未来の地域包括ケアのモデルケースとして注目されています。

「観光の町」への可能性と町の変化の新たな流れ

2000年以降にビジネスホテルの形態に転向する簡易宿泊所が現れ、平成14年（2002年）に開催された日韓ワールドカップの開催時期には一



高齢者の町となつた山谷を支えるネットワーク

部の簡易宿泊所で外国人旅行者の受け入れが始まったことをきっかけに、山谷の町は外国人観光客やビジネス客向けの安価な宿泊施設の集まる場所としても知られるようになりました。さらに、浅草や東京スカイツリーなど観光施設の整備が進み、多くの観光客が訪れるようになっていきました。

ビジネス・観光向けの簡易宿泊所は、令和3年（2021年）の段階で13軒あり、山谷地域の簡易宿泊所全体の約1割にあたります。また、令和元年（2019年）ごろからは、老朽化した簡易宿泊所がマンションなどに建て替えられるようになり、若年層の移住者も増加しています。

まちづくりの方向性と今後の課題

台東区の「都市計画マスタープラン（平成31年）」において、山谷地域を含む台東区北部地域

は「人々が共生し住み働き続けられる便利なまち」という将来像が掲げられています。さらに、北部地域の既存の建物などを活用したまちづくりの推進のために、簡易宿泊所密集エリアについては、外国人観光客等の増加を見込んで、観光向けの宿泊施設への転換を促進することがまちづくりの方針に挙げられています。

ほかにも、安全で快適な住みやすい生活圏の形成のために、山谷地域については、これまで取り組んできた環境衛生などの地域環境改善対策や就労対策、福祉・保健衛生対策を引き続き進めていくことなども方針とされています。

その一方で、町の再開発の影響による立ち退きなどで、山谷地域の簡易宿泊所やアパートで長年暮らしてきた人が住み慣れた山谷の町に住み続けられなくなることや、簡易宿泊所や低家賃物件の減少により、社会から孤立し生活に困窮した人々



の住める場所が限られていくことが懸念されています。また、新たな住民や観光客向けに街並みが変わっていくことにより、山谷で暮らしてきた人たちが気軽に集えていた場所も少なくなっていくのかもしれない。

町の変化にどのように向き合っていくのか

路上生活者が少なくなり、街並みが整っていくのは世間的には好ましく受け止められるでしょう。しかしそうなったとしても、さまざまな事情により地域社会から排除されて山谷の町にたどり着いてきた人々や、私たちが活動をとめて出会ってきた人たちのように、社会から孤立し生活に困窮した人々がいなくなったわけではありません。

ともすれば、新たな住民からの苦情や、それまで山谷で暮らしてきた人とのトラブルなど、町の変

化にともなう不協和音が起こるのかもしれませんが。そのときに多様な人々が互いに排除し合うことなく、いかに共存していけるのかが問われているでしょう。そのためには、背景の異なる一人ひとりの人間同士が対立せずに、少しずつ違いを認め合うことが大切です。

山谷の歴史が物語ってきたように、この町には地域社会から排除された人などが、東京という都市を形作るという社会の必要に応じるために、まるで大きな力に動かされているように集められてきました。この町の変化に向き合っていくときに、現在の発展の影として存在した歴史を、何事もなくたかのように消し去ることはできません。同じ社会で生きる多様な人々が共存していくために、私たちはこの町のあゆみから学ばなければならないのだと思います。

（副代表 油井）

活動報告 1

▼2023年度 山友会クリニック 活動実績



一年を振り返って



おふたりとも、「きぼうのいえ」に入所されてからも、体調のよい時にはスタッフの方に付き添われて山友会まで来てくれたり、時折私たちもお見舞いに伺ったりしました。訪問看護師の方も折に

(クリニック看護師 関)



活動報告 2

▼2023年度 相談室 活動実績



山友荘のおじさん「もうなってるんだよ！」

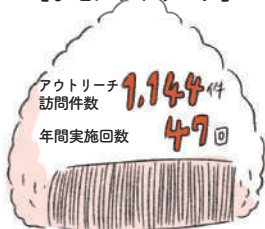
炊き出し・アウトリーチ

活動報告 3

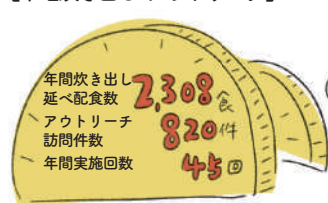
山友会では、隅田川河川敷で毎週水曜日にテント生活の方々と訪問するアウトリーチを行い、木曜日には炊き出しとアウトリーチを行っています。多くのボランティアの方々とともに、食事の提供だけでなく生活相談や健康状態の確認なども行っています。

▼2023年度 炊き出し・アウトリーチ 活動実績

【水曜アウトリーチ】



【木曜炊き出し・アウトリーチ】



【上野アウトリーチ】



一そろそろ横になりますか？

山友会のおじさん「なるよ！横でも縦にでもなるよ！」

一年を振り返って



ここ最近、上野界隈にはたくさんの旅行者が訪れます。しかし夜更けに上野を訪れると、シャッターが閉まった駅付近に多くの路上生活を送っている人たちの姿が見られます。ダンボールを敷いて毛布にくるまって寝ていても寒いでしょう。じつと座っていた70代の男性が言いました。

「よく寝られて3〜4時間。足音や騒音で寝られないことが多いよ。夜明け前には起きる。シャッター前で寝ていると、働いている人の迷惑になるからね」

毎週水・木曜日に隅田川河川敷で行っているアウトリーチのほか、月2回の上野駅付近の夜間アウトリーチ（上野アウトリーチ）も継続しています。食品などを渡しなが、路上生活を送る方に声をかけて無料診療や生活相談につないでいます。

3月の水曜アウトリーチの時、桜橋付近で初めて見る男性がいました。がっしりとした体格で、年齢は60代ぐらいです。

「足が痛くて歩けないんです。友人に相談したら、山友会に無料のクリニックがあるからと勧められました」

詳しく話を聞くと、相談した友人もかつて路上生活をされており、アウトリーチで山友会と出会い、病気の治療のために生活保護を受給したようです。現在その友人は、安定した生活を送っており、路上生活を送っていた頃の仲間たちに時々会いに来ているとのことでした。

数日後、足の痛みを訴えた男性が、山友会を訪れました。

「前は造園の仕事をしていました。でも、年末ぐらいから仕事なくなり、住んでいた寮も出されてしまって。ちょうど寒さが厳しい1月からホームレスになりました」

昼間は人目を避けるため出来るだけ歩いて過ごし、夜は浅草の仲見世通りや隅田川の白髭橋の下での野宿生活。炊き出しの情報は、親しくなった路上生活の人たちに教えてもらったといいます。「いきなり路上生活になって、どうやって生きていけばいいのかわからなかった。出会ったホームレスの人たちは、みんな親切でした」

この話を聞き、路上生活の方たちも支え合って生きているのだと思いました。

炊き出し・アウトリーチの活動は、多くの方たちに支えられています。カイロや靴下、缶詰など物品の寄付をしてくださる寄付者の方々、炊き出しのお弁当やおにぎりを朝から作ったり、アウトリーチに参加してくださったりしているボランティアの方々、いつも活動を支えてくださる皆様に感謝しております。

(炊き出し・アウトリーチ 後藤)



活動報告 4

▼2023年度 食堂での昼食提供 活動実績



一年を振り返って



(食堂 小柴)

あるボランティアさんは、いつもサラダ作りを担当してくださっているのですが、どんなご寄付の食材が届いても、上手にサラダに取り入れてくださいます。味付けに迷ったときは必ずそのボランティアさんに相談しています。



山友荘

活動報告 5

山友荘は、元ホームレスの方などで、介護が必要であったり、病気や障害のため一人で暮らすことが難しくなった方のための住まいと生活支援を提供しています。スタッフが常駐し、生活の見守りや支援を行うほか、食事の提供、医療機関・介護事業所などとの連絡調整を行うことで、入所されている方々の暮らしを支えています。

▼2023年度 山友荘 活動実績



(寄付品でいただいたシャンプーを見て)「こんなに薄くなった頭で、なんだか申し訳ないね……」

一年を振り返って

長く生活を送ってきた山友荘入居者の方たちも年を重ねて、お別れの時を迎えることが増えてきました。

山友会とは20年近くの付き合いだったカセさん(仮名)は、簡易宿泊所で生活しながらアウトリーチや炊き出しを手伝っていました。精神的な不調で閉じこもりがちな生活となり、体重は減り続けて命が危ぶまれるまでにやせ衰えてしまったことで、2年前に山友荘に入居しました。

入居してから栄養状態はよくなったものの、口数は少なく閉じこもりがちなカセさん。みんなで心配して買い物などに誘っていましたが、「いや、いいよ」と面倒くさそうに答えることが多かったのですが、「こんなみっともない姿になったのを他人に見られたくない」という気持ちがあったようです。

昨年夏のとある早朝に道に迷って、動けなくなっていたところを救急隊に保護されると、足が骨折していたことが判明して入院します。しかし、しばらくして病院から容態が急変したとの連絡。肩で息をするカセさんに「早く治して帰ってきて」と声をかけたのも甲斐なく、その数時間後に息を引き取りました。

昨年9月末には、10年以上山友荘で暮らしてきたカネシマさん(仮名)との突然のお別れがありました。脳梗塞や心筋梗塞など、何度も命の危機がありましたが、その度に生還を果たしてきました。大病をするたびに介護が必要となったことで、スタッフも生活面でのお手伝いをするが多くな

りました。

カネシマさんは、心配性な反面、持病にはよくないと説明されていることでも、好きな物を飲み食いすることは譲れないなど、生活スタイルを頑として変えなかったところがありました。周りが心配しても「俺がいいって言うてるんだからいいじゃないか!」と、どこ吹く風。冗談が好きで、気が置けない相手とは互いに皮肉を込めた冗談を掛け合っては、よく大笑いしていました。憎めない性格もありますが、たくさん心配させられた分、みんなに愛されていた方でした。

おふたりとも、あまりにも突然のお別れとなつてしまい、スタッフだけでなくご本人のもとを訪問してくださっていた看護師さん、ヘルパーさんなど皆さんがショックを受けました。

突然のお別れであっても、ゆっくりとお看取りするお別れであっても、人生の旅立ちを見送っていくことがこれからは増えていくのかもしれません。私たちが確かにできることは、見送った方たちの存在と彼らとの思い出を忘れないでいることなのだと思います。

(山友荘 油井)



居場所・生きがいきづくりプロジェクト

活動報告 6

ホームレス状態にある方や地域で暮らす元ホームレスの方などが、地域の中で孤立せずに自分の存在を認められる居場所と、自身の生きがいとなるような社会的な役割を手にするを目的に、そうした方々が主体的かつ持続的に参加できる居場所づくりや生きがいきづくりをサポートしています。

▼2023年度 居場所・生きがいきづくりプロジェクト 活動実績



一年を振り返って

この1年では、メンバーのおじさん達が互いの近況や町の変化等について話し合う「生きがいきづくりミーティング」と、メンバーが考えた「折り紙の会」を月に1回ずつ開催。また、定例のクリスマス会やお花見散歩も行いました。このほか、2023年度のトピックスを報告します。

「まちづくりについて考えるミーティング」がついに実現!

数年前からメンバーのおじさん達と「まちづくりについて考えるミーティング」の準備をしていましたが、それがついに実現しました。このミーティングでは、おじさん達が暮らす山谷地域の商店や旅館の関係者の方をゲストにお招きし、メンバーから質問をしたり、山谷の町について意見交換したりして、同じ町にかかわる人同士で理解を深めることが目的です。2023年度、このミーティングを2回実施できました。1回目のゲストは簡易宿泊所の帳場さん、2回目は映画喫茶「泪橋ホール」の店主で、どちらも山友会の近隣にある施設の方です。

当日は、メンバーの皆さんが事前に考えた質問に、ゲストのおふたりが丁寧に答えてくださいました。そして、おふたりからメンバーたちへ質問されるなどのやりとりもありました。ゲストの方とお互いに理解を深めることで、自分たちの暮らす地域の中で新たなつながりができたのは大きな成果です。普段見かけることがあっても、深くかわる機

会はない近隣の方々。そういった方たちと少しずつつながっていくことは、この町に暮らすおじさん達にとって貴重なものです。

「餃子を食べながら映画を観る会」に胸を躍らせる

泪橋ホール店主の多田さんから、「大きなスクリーンで映画を観ませんか? うちの名物の餃子でも食べながら」という素敵なお誘いをいただきました。メンバーのおじさん達は普段なかなかスクリーンで映画を観るイベントに興味が、仲間達と楽しい時間を共有している様子でした。多田さんには素晴らしい機会を頂戴し、本当に感謝です。

生きがいきづくりミーティングに新たな風

山谷地域を中心に居住支援・生活支援などを行う「NPO法人自立支援センターふるさと会」の職員の方がこのプロジェクトに関心を持ち、2023年の秋からミーティングに参加されました。1月以降には、ふるさと会の運営する施設の利用者さんもミーティングに参加していただき、4名の方々と出会うことができました。皆さん、「まちづくりについて考えるミーティング」にもご興味を持たれたようなので、メンバーのおじさん達と一緒に山谷の町について考える機会になればと考えています。(居場所・生きがいきづくりプロジェクト 伊藤)



山谷・アート・プロジェクト

活動報告 7



2023年写真大賞



Tokio



Teruo



Koji



Kuraki



Masaharu



Misao



Daimon



Hideaki



Hiroyoshi



Jiro

一年を振り返って

今年度は、写真部メンバーとともに外部のイベントに参加する機会があり、さまざまな方々と触れ合えた1年でした。

7月、山谷地域にある「訪問看護ステーションコスモス」より、隅田川花火大会の鑑賞会にご招待いただきました。数年ぶりの花火大会に山谷の町も大変な賑わいでした。メンバーは人混みの中やコスモス事務所の静かな屋上で、夜空に上がる壮大な花火にカメラを向け、それぞれに心動いた瞬間を記録していました。

11月、早稲田大学の学園祭で、作品の展示と山谷・アート・プロジェクトのプレゼンテーションを行いました。来場された方々から直接写真の感想を聞けて、メンバーにとっては大変貴重な体験だったようです。

12月には、3回目となるフォトコンテストを開催し、表彰式を清川区民館にて行いました。前年に引き続き「写真部メンバーと山谷地域を巡る撮影会」も実施。参加された方々と撮影を楽しみました。表彰式では、審査員の方々から受賞作品に対する熱いコメントをいただき、メンバーからは「来年はもっとよい写真を撮りたい」という意欲的な言葉が聞けました。

今後もメンバーの皆さんが、現在の山谷や彼らの日常を記録することをサポートしてまいります。
(山谷・アート・プロジェクト 後藤 高木)

フォトコンテストの作品や写真部のメンバーが撮影した写真は、こちらからご覧ください。



共同墓地の運営

活動報告 8

「死後もつながりを感じていられるように」という想いのもと、活動を通してつながりをもった、ホームレス状態にある方で無縁仏となってしまう方のための共同墓地を運営しています。2023 年度末までに 39 名の方のご遺骨が納められました。



「今の子ども達はかわいそうだよ。こんなに暑くチャプールの水もお湯になって、涼しくならないだろうに」

いつもの場所で



2023 年の夏、山友会を含む、山谷で活動する諸団体合同の慰霊祭が、玉姫公園で行われました。コロナ禍では、いつでも会えた人と会えない日々が続き、気づいたらその方が亡くなっていたという経験しました。そのせいでしょうか。こうした機会を通して、いま生きている仲間と共に亡き仲間を想う時間がとても尊く感じられたのです。

毎年くりかえされる供養の場で、いつもの友と、いつもと同じように顔を合わせられることが、いつもの場所で同じことを行えることが、いかにかけがえのない幸せな時間であったかと、手を合わせながら感じさせられました。

慰霊祭では、路上に暮らす方、生活保護の方、施設にて車椅子で生活する方、ケアワ

カー、ボランティアなど多様な人たちが、供養の後に一緒にスイカなどを食べて、穏やかで楽しい時間を過ごします。きっと、こうしたゆるやかなつながりが、また次の一年を生きる力になるのでしょう。神様も仏様も、先立つ大切な方々も、仲良く過ごす私たちのことを、やさしく見守っていてくださっているに違いありません。来年もまたいつもの場所で、元気な姿で再会し、共に時間を過ごせることを願っています。



(光照院 住職 吉水岳彦)

社会的包摂を推進するための 普及・啓発事業

活動報告 9

ホームレス問題や山谷地域で起きている社会的孤立を背景にした問題を根本的に解決していくためには、多くの方々のご協力が欠かせません。ホームレス問題や山谷地域の現状、そして山友会の取り組みについての情報を発信し、問題解決に向けた参加を促すために様々なイベントや講演活動、マスメディア等の取材への対応を行っています。

一年を振り返って

「どうい理由でホームレスになるのですか？」

「なぜホームレスを続けているのですか？」

というご質問を見学にいらした方から受けることが多くあります。路上生活を送る人と深く関わる機会がない方たちにとっては、気になるのはもともとです。

ホームレス状態にある人の存在は世の中からは見えづらくなっています。住まいや仕事がないことばかりが路上生活を送る人にとっての問題とされ、その背景にある、誰にも助けを求められないほどに社会から孤立し、前向きに生きる力を失ってしまうという根本的な問題に気が付くことが難しいのは、その見えづらさからなのでしょう。ホームレス問題のように社会的孤立や孤独感に伴う問題は、見えづらいがために正しく理解されることも難しくなってしまいます。

私たちの活動の現場で起きている現実や活動の価値も同様です。社会的に孤立し困窮した方たちの置かれている状況、そうした人々に向き合うスタッフやボランティアの方々の想い、そして、ご支

援いただいている方たちの想いなど、世の中からは見えていない現実や活動の意義を丁寧に汲み取り、多くの人たちに届けていくことで、理解と共感を生み出すことにつながっていきます。そのために、ホームページや SNS などを通じた情報発信、マスメディアの取材やご見学の対応などの取り組みを行っています。

こうした取り組みを通して、ボランティアへのご参加やご寄付など、問題解決に参加していただける方を増やしていくのも私たちの役割です。見学された方の中には「私たちにできることは何ですか？」と尋ねてくださる方もいらっしゃいます。ボランティアやご寄付もそうですが、私たちの活動を通して知ったことを身近な人たちに伝えていただくことで、その存在が忘れられがちなホームレス状態にある方々のことに思いを巡らせる機会になるのです。

このように支援の現場と社会をつないでいくことで、少しずつ社会が変わっていくと信じています。(広報担当 後藤将之)

イベント・講演・メディア掲載

日付	イベント・講演
2023 年 5 月 10 日	東京社会福祉士会 司法ソーシャルワーク勉強会にて講演 「山谷・地域ケア連携をすすめる会の取り組みについて」(副代表 油井)
5 月 23 日	東海大学医学部看護学科にて講義 「社会の変化に伴う地域の健康問題と支援の実際 - 山谷地域の現状と山友会の取り組み -」 (副代表 油井)
8 月	公益財団法人ノーマライゼーション住宅財団発行 「第 33 回 2023 福祉住宅建築助成実例集 ふれあい」 特集『労働者の町から福祉の町へ 山谷の「今」を訪ねる』
8 月 19 日	「山谷・地域ケア連携をすすめる会、自立支援センターふるさとの会共催 合同慰霊祭」 に運営協力
9 月 30 日	2022 年度 オンライン活動報告会
10 月 19 日	soar『「生きていても、死んだあととずっと一緒」 40 年間ホームレス支援を続ける山友会とおじさんたちが築いた“家族以上の関係性”』 (代表 ジャンと副代表 油井のインタビュー)
11 月 4 日	早稲田祭 2023 早稲田大学ジャーナリズム演習 山谷・人と街の記録プロジェクトの企画 「山谷のひとと街に出会う」にて山谷・アート・プロジェクトの活動紹介 (山谷・アート・プロジェクト 後藤)、写真展示
11 月 17 日	東洋大学にて講義 「NPO 法人山友会による路上生活者／ホームレス支援の取り組み」(副代表 油井)
12 月 2 日	成城学園教育研究所研究助成「サステナブルな社会とライフキャリア構築」 シンポジウムにて講演「ホームレスと社会的孤立をめぐる社会課題の解決にむけて」 (副代表 油井)
12 月 21 日	東京新聞『山谷の今を写真に収める 日雇い労働者の町も変化 支援団体がプロジェクト』
2024 年 2 月 10 日	山谷・地域ケア連携をすすめる会 「第 2 回 山谷地域の看護・介護・生活支援のお仕事説明会」に運営協力
2 月 12 日	一般社団法人あだち子ども支援ネット主催 コネクトリンクフォーラム「貧困を語る」にて 講演「貧困はアートで癒されるか？」(山谷・アート・プロジェクト 後藤)
3 月 3 日	”りんりんふえす山谷 sing with your neighbors” 座談会「東京を支えてきた街 “山谷” を知っていますか？」に登壇 (副代表 油井)、 「山谷の歴史」パネル展示、山谷・アート・プロジェクトの写真展示

29

ご支援について

支援者からのメッセージ

昨年5月から上野駅周辺のアウトリーチにボランティアとして参加しています。第1・第3金曜日の夕方、ショッピングカートにお弁当をいっぱい入れて、上野駅周辺で路上生活を送っている人々を訪問します。持ってきたお弁当を渡し「体の具合はどうですか」と聞くと、皆さん笑顔でお話をしてくださいます。厳しい生活を送っているにもかかわらずに私たちを優しく受け入れてくださる、そうした人々にいつも心を満たされています。

(カトリック成城教会 杉浦 雅昭 様)



アウトリーチを通して実際におじさんたちにお弁当をお渡しできるのは、自分にとって幸せな時間です。毎年、教会では山友会の活動への寄付の呼びかけを行っています。「資金がなくては無料診療所、炊き出し、食堂などの素晴らしい活動ができなくなってしまう!」との危機感にかられ、クリスマスの時期には毎年ハラハラしながら募金活動をしております。非力ではありますが、これからも宜しく願いいたします。

(カトリック赤羽教会 石澤 哲也 様)



企業・団体からのご支援

一般財団法人日本メイスン財団様より山友会クリニック薬品購入費用とシェルター宿泊費用のご支援、在日米商工会議所様、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団様より活動費用のご支援、有限会社報徳佐野農園様よりお米のご支援、プレミアムウォーター株式会社様より飲料水のご支援をはじめ、多くの企業・団体よりご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

ご支援のお願い

【マンスリーサポーターに参加する】(毎月の寄付)

クレジットカード決済・口座振替のいずれかをお選びいただけます。お申込み方法などの詳細は右のQRコードから山友会ホームページ(<https://www.sanyukai.or.jp/monthlysupporter>)をご覧ください。山友会事務局までお問合せください。



【寄付をする】

ーご寄付の方法

- ・郵便振替をご利用の場合

00100-2-158990 加入者名: 山友会

※銀行振込をご希望の方は事務局までお問い合わせください。

- ・クレジットカードをご利用の場合

<https://sanyukai.or.jp/donation>

上記URLより、クレジット決済システムを利用してご寄付ください。

右のQRコードからもアクセスいただけます。



※寄付金受領証明書は1月1日～12月31日までの1年間の合計寄付金額を記載し、翌年1月～2月ごろにお届けいたします。

恐れ入りますが、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

【物品でのご支援をお考えの方へ】

その時に必要なものを山友会のホームページに掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

右のQRコードからもアクセスいただけます。

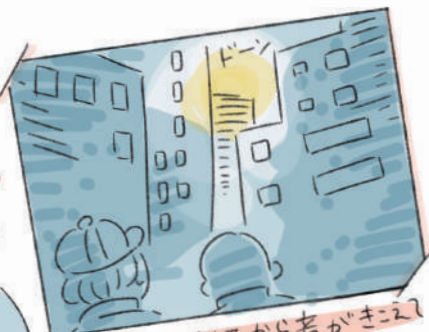
また、大変お手数ですが、発送前にご連絡いただけますと幸いです。

なお、薬品全般に関しては、市販薬、個人に処方されたものを含め、受け取ることができませんので、何卒ご了承ください。



山友会の 今昔 (今 編)

いつの間にか
とんとん建物が
建っていたなあ...



▲ビルのすきまから者がきこえる花火大会



▲おじさんたちの「冬の棲家」となった山友荘

家族みたいなもんだからな

▼クリニックの様子



▲メディアにとりあげられた山友会の記事

おじさんたちの
かかろつて

いそいそと
支えられて
います

▼クリニックで食堂・火災
出しのボランティアさんたち



▲手伝ってくれる
おじさんたち



▲支えてくれる各地の
みなさん

NPO
山友会
特定非営利活動法人
SANYUKAI

特定非営利活動法人 山友会

〒111-0022 東京都台東区清川 2-32-8

TEL : 03-3874-1269 FAX: 03-3874-1332

MAIL : info@sanyukai.or.jp

WEB : https://sanyukai.or.jp